

◎ご講演「アフリカで初開催されたTICADと日本の貢献」

外務省 アフリカ部長（大使） 丸山 則夫 氏

◎大使の手紙「光り輝く島スリランカから」

在スリランカ日本国大使 菅沼健一氏

【会員のページ】「世相雑感」への会員の方のご投稿をお待ちしています



「アフリカで初開催されたTICADと 日本の貢献」

外務省 アフリカ部長(大使) 丸山 則夫 氏

(平成28年9月12日 於日本記者クラブ)



今日は先日、ケニアで開催した第6回アフリカ開発会議（TICAD）についてお話をさせていただきます。日本とアフリカの関係は、いまだに遠いと思っ

ている方が多いと思いますが、TICADが最初に開かれたのは1993年。冷戦終焉の直後で、すでに23年間の歴史があります。実は、アフリカを非常に身近に感じている方々も日本にはたくさんおり、政府開発援助（ODA）に携わっている方々はTICAD開始前からアフリカで様々な活動をし、海外青年協力隊（JOCV）の皆さん方は現地の人も行かないような奥地に入って学校の先生などをして現地の方々に貢献している。そういう裾野の広い積み重ねの上にTICADが始まって、日本で5回開催した経験の上に、今回初めてTICADをアフリカで開催することができたのです。

ルで決まりました。そうすると日本開催が10年に1度になり、モメンタムが保ちにくいので、3年ごとの開催として、前回から3年後の2016年に開催することとなりました。2013年の会議では5カ年計画を作成し、その計画や宣言が実行されている最中に今回の会議となるので、何にフォーカスを当てるのか、会議のアジェンダが今まで以上に重要でした。そこで日本政府は世銀、国連開発計画（UNDP）、アフリカ連合委員会、国連アフリカ担当事務総長特別顧問という共催者も交えて協議しました。

アフリカ53カ国が参加、全参加者は1万1千人

今回のTICADにはアフリカの53カ国が参加し、米英仏などのアフリカのパートナー国、国際機関や多くの非政府組織（NGO）も参加。サイド・イベント参加者も含めると、ケニア側が把握している全参加者は約1万1千人でした。単純な比較はできませんが、4千～5千人だった横浜会議の倍の規模です。日本が外国で開催する国際会議としては恐

※ご注意

会報は会員専用のサービスのため、ご購入いただくには、ぜひ当協会にご入会くださいますようお願い致します。